

映秀復旧復興国際フォーラム出席報告

2009年4月7日から9日まで、中国四川省建設庁、広東省建設庁、アバ州人民政府、中国建築科学研究院の主催により、成都市で映秀復旧復興国際フォーラムが開催されました。アジア防災センターからは、このフォーラムの共催機関の一つとして、鈴木所長以下3名が参加しました。

鈴木所長は、開会式での挨拶で、日本の地震防災に関する技術、経験、教訓をアジア防災センターが窓口となって四川省ブンセン地震の復旧復興に役に立つ用意があること、地震に対する能力を強化するためには、先進的な技術を導入するだけでは不十分であり、国民が地震を含む多くの災害のメカニズムを知り、自分たち自身で何ができるのかを考え、防災に対して積極的に取り組むことがきわめて重要であると強調しました。



フォーラムには、中国、日本、イタリア、ドイツ、カナダ、ニュージーランド等の専門家及びブンセン地震被災地の地方行政官など約250人が参加しました。フォーラム参加者は、2008年5月の汶川大地震の震源である映秀鎮の被害・復旧復興進捗状況を視察した後、復興計画、耐震減災、建築と生態環境の三つのグループに分かれ、発表と議論を重ねました。アジア防災センター職員は、「阪神・淡路大震災からの教訓ーコミュニティ防災能力強化」と「日本の耐震補強促進策及び耐震補強技術」をテーマに発表しました。



このフォーラムを通じて、アジア防災センターと現地の防災関係機関とのネットワークが構築され、アジア防災センターが計画している被災地での住民参加型コミュニティ防災能力強化プロジェクトの実施や新潟県や長岡市が推進しようとしている被災地の支援システムの構築のための重要な第一歩になりました。